

あなたは今、無事「ミクロ経済学演習（月1：江口先生）」の授業の部屋に入っています。

- 今接続しているWi-fi等の料金（ネットの通信費）は大丈夫ですか？
- 途中で「出席」をとる必要があるため、学生は「学籍番号・名前（例えば2012345産大太郎）」という名前でZoomにログインし、入室してください（この授業に参加して下さい）。
- 音楽を流していますのでボリュームを調節してください。
- 9時15分になったら画面が「江口研究室の江口先生画像」に切り替わります（授業は「生放送」で行われます）。
- 学生は「自分の画像（自分の顔）」が「Zoom画面上」で「ちゃんと映っている状態」で9時15分が来るのを待っていて下さい。

まず、冒頭、学生諸君に確認です。

1) 学生は、今、この授業を受けているネットが、「**使い放題という料金プランのインターネットプロバイダーサービス**」もしくは、「マクドナルド」などが提供しているような「**接続し放題の、Wi-fi**」などを通して接続しているのかどうか、確認して下さい（認識して下さい）。

学生が、「よくわからないまま、とにかくオンライン授業に出席しなくっちゃ、といって「**使い放題・接続し放題の、Wi-fi、ではないインターネット接続をして、それこそ何十万円、といった巨額のネット接続料金**」でも請求されたりなんかしたら悲劇なので十分注意して下さい。

2) 学生は、私の声がきちんと聞こえていますか？ボリューム調整、大丈夫ですか？

ちょっとだけ時間をあげますので、ボリュームをあげたい（聞こえてくる私の声を大きくしたい）学生は、これから「**1から10まで数字を数えます**」ので調整してみてください。

3) もし「江口先生の声が全然きこえないんですけど・・・」という場合は、新潟産業大学の、この授業を見ているどなたか教職員の方、江口研究室（内線**209**）まで、電話して下さい（教えて下さい）。

出席の取り方について

- 「ミクロ経済学演習」ではとりあえず「2通りの方法」で、出席をとろうかと思っています。
- 1つ目は（授業の途中で休憩を挟むので、その際に）画面を通じて出席を確認
- 2つ目はZoomの「チャット機能」を使って出席の確認
- （出席の取り方は先生によって異なりますので、注意してください）

1) 休憩時に行く「画面を通じての出席の確認」とは？

学生は、私の授業の際には、普段は必ず顔が見える状態にしてください。



Zoomを使って授業をしていると学生も疲れてくると思いますので、ときどき授業に「1～2分程度の休憩」を挟みます。休憩時間中は「ビデオの停止」をしてもらいます。（すると**学生の名前だけが映ります**ので）、その間に私が「だれが出席をしているかをチェック」します。



なお、学生は、私が出席を取っているとき以外（つまり休憩の時以外）は必ず**顔が映る（移り続ける）**ようにしてください（でないと、サボっているとみなします）。



から



への切り替えは



このボタンを押す（クリックする）ことで、切り替わります。

2) Zoomの「チャット機能」をつかったの出席の確認



学生は、チャットをONにして、
「学籍番号と氏名」を
例えば
2012345産大太郎
みたいな感じで、入力してください。

するとそのような文字（学籍番号と
名前）はずっと「チャットログ」として
残りますので、それをあとで江口が
チェックし「2012345産大太郎君は授業に
いたんだな」といった具合に確認します。



このボタンを押す（クリックする）と、
チャット機能（文字を打ち込んで、文字
画面で対話できる機能）がONになり、
画面右側に「チャット画面」が現れます。

目次（本日のお題）

（第1回：2020年5月11日）：

この授業はどんな授業か

（そもそも何を学ぶ授業？どんな形式の授業？単位認定には何をしなくてはならない授業なの？などなど）

予定

1) ミクロ経済学演習という授業は「どんな授業」なのか、ということの説明

それを受けて、

2) そもそも、ミクロ経済学とは、どういう学問なのか？というお話

（初回の授業での「定番の話」です）

3) それでも時間が余ると思うので、初日から申し訳ないが、
ちょっとだけ、「**数学のお勉強**（とりあえず今日は**聞き流すだけで、いいからさ。。。)**」
のお話。

ミクロ経済学演習

ミクロ経済学演習とは、ミクロ経済学をきちんと理解したうえで、その演習問題を「解く」という授業です。

ちょっとまで。ミクロ経済学って、「演習問題」を解く、ような、そんな、理科系的というか、数学みたいな学問でしたっけ？

そう。

じゃ、数学が苦手な人はどうすればいいのでしょうか？

数学がどうしても**アレルギーがある**、という人は、基本的にこの「ミクロ経済学演習」という授業を履修することはおススメしません。

なお、「ミクロ経済学演習」は必修科目ではありません。

(なお、産大には「基礎ミクロ経済学」「ミクロ経済学1」「ミクロ経済学2」といった授業がありますが、それらの授業と、この「ミクロ経済学演習」は、あくまでも「別の授業」ですのでくれぐれも混同したり間違ったりしないようにお願いしますね。)

では、気になる諸々のこと・・・

1) 単位認定のための条件（単位を得るためには何をしなくてはならないか？）

月曜1時限の時間帯にきちんと「ミクロ経済学演習」の授業を見て、そこで私がいろいろ説明をするので、それを理解し、そしてそのあと私が出す「演習問題」を解いて、その答えをZoom内のチャットで即座にこたえる、あるいはメールで期限内に提出する。
それを繰り返す（＝演習問題を解く、という作業を実際に繰り返す）。

2) 期末試験やレポートは？

「演習」の授業なので、期末試験は（2020年度は）しないかもしれません。
演習問題を解いて期限内に出す、ということを平常からやっていた学生には試験は免除して単位を出す可能性があります。

ちなみにこの授業は「演習」授業ですので、GPAによる規制の対象ではありません。

3) 教科書（参考書）は？

去年、一昨年と使った教科書を今年も使います（ただし、現在、絶版中（**品切れ**になっていて、追加で印刷されていなくて**枯渇している状態**）なので、学生は買わなくていいです。書名はシラバスに書いてあります。

上級生の中には、数人、教科書を持っている人がいます。そのような**先輩から譲ってもらう**のも一つの手段（教科書を手に入れる手段）かも知れません。



あと、

1) 授業の資料は、以下のホームページにあります。



<http://www.nsu.ac.jp/official/fa/eguchi/index.html>



この手の画像も上記ホームページにありますので先生方はパワポ資料を作られる際に（必要があれば）ご自由に使って頂いて構いません。

2) **授業についての連絡**（レポートや課題の**メールによる提出**を含む）は

○ eguchi@st.nsu.ac.jp（授業専用のメールアドレス）

✕ eguchi@econ.nsu.ac.jp

に送って下さい。

ここまでの話を聞いて、「わかりました」という人は、



このボタンを押すと「拍手」と「賛成」のマークが出てくるので「拍手」のマークを押してください（すると数秒間、「拍手」のマークが画面左上に出ます（その後自動的に消えます））。

ミクロ経済学とは、どんな学問か？

私たちは、何をやっているのか。どんなことをやっているのか。

人々はどんな社会であれ、「自分が得意とするもの、作りたいもの」をたくさん作って、それを相手にあげて、代わりに別のものをもらう（つまり交換しあう）ということをして、お互いに高い幸せな生活を送りあっている。

つまり「特化」「分業」することでたくさん作りあって、それ（=たくさん作ったもの）を交換しあって、お互いによい生活を送りあっている。

人々はいつの時代、どの国や地域においても「特化・分業して作りあい、交換しあおうとしてきたし、今もしている。

そのような、人々の営みについてであるが、

そこ（物質世界）では資源（の量）と「使える技術」に限りがあり、そこで達成できる状態は（可能性はいくらでもあるかもしれないが）限られている（範囲は限られている）。（**そうだよな？**）

ではそのような「限られてた、行き付き得る状態」の中で、

1) そもそもどの状態が、「一番いい状態」なのか。「目指すべき状態」なのか。

「これが達成できたら、いいのにな」という状態なのか。

2) 果たしてそのような「いい状態」は、どんな社会制度のもとで到達できるのだろうか？

例えば「みんな、自由に、市場制度でやりましょう」という社会は「みんな」をそこ（これが達成できたらいいな、という状態）に導てくれるのか。

3) あるいは「市場制度でやりましょうや」という社会であったとしても、例えば「残念ながら〇〇については、この社会や地域では十分ではない（条件が整っていない）」といった場合に、それでもみんなは「望ましいところ」に導いてもらえるのか？

もし答えが「ノー」であるなら、「どこに連れていかれてしまう」のか。

誰がほくそえみ、誰がぶつぶつ不平をいうような状態になるのか。

人々はいつの時代、どの国や地域においても「特化・分業しあい、交換しあおうとしてきたし、今もしている。そのような人々の営みについて、前のページのようなことを考えるのがミクロ経済学

そのためミクロ経済学の内容は、大きく3つあります。

1つめは 消費者の理論（交換しあって、「もらおう」とする立場にたったときの、人の姿）

消費者、というのは、いまこの授業を受けている「あなた」です。

なので、「消費者の理論」というのは、「あなたが普段どんな感じで日々の生活を送っているか、その姿」を、説明しているはず、という、「ありがたいのかお節介なのか」「嘘なのか本当なのか」なんとも微妙な立ち位置（？）の、理論です。

2つめは 生産者の理論（特化・分業しあってどんなふうにとたくさん作っているか、という姿）

学生は、アルバイトをし始めて、アルバイト先で何かし始めた途端、生産者の一部になります。

このように、私たちは普段から「消費者でもあり、時には生産者にもなり」という、ややカメレオンのような存在、です。

3つめは 市場均衡の理論（みんなが交換しあえたら、本当に良い状態の世界に到達するかどうか、の部分）

市場（市場）というのは、いわゆる「市場主義制度の社会」における日常生活空間全体を、指します。

ミクロ経済学の授業で「市場」と書いて「いちば」と読むことは、基本、「ありません」。市場と書いたら「しじょう」と読む。そしてそれ（市場）は市場制度の社会の、日常空間、今呼吸をしている、この空間が、「市場」です。

なので例えば「今、自分はアルバイトをしている（あるいは、したい）」という学生は、今、労働市場の中に「います」。

「消費者の理論」とは何ぞや？？？どんなものであるのか？？？

この授業（ミクロ経済学演習）の履修者は産大の2年生です。なので「基礎ミクロ経済学」2単位を宇都宮先生から習って（おそらく単位を）持っているハズです。

なので単刀直入に申しますが、ミクロ経済学の消費者の理論というのは、基本的に単純な内容であり、そこで語っていることは

人は、「自分の買うことのできる範囲内」で、自分にとって、一番幸せになれるようにいろいろな財やサービスを買っている

ということであり、消費者の理論とはそのような人々の姿をモデルとして「自分たちはこんな風に行っているんだよね。そうよね？」とって「描き出している」だけ、です。

なので、ミクロ経済学の第一歩は、「なるほど、私たちは、実はいろいろな条件のもと、自分にとって一番幸せに、心地よくなれるように、行動しているな」という認識を持つこと、です。

本当に私たちは「実はいろいろな条件のもと、自分にとって一番幸せに、心地よくなれるように、行動している」のでしょうか。

実は、答えはイエスです。

本当に、私たちは、実はいろいろな条件のもと、イヤというほど自分にとって一番幸せに、心地よくなれるように、行動しています。徹底しています。

少し身近な例でいうと・・・

本当に人々は「自分が一番良いようにしよう」としている、その具体例 1

去年と一昨年は、「ミクロ経済学演習」の授業は産大の203教室という「大教室」でやっていました。

すると、受講生（去年やおととしの学生）は、誰一人203教室の最前列には座らず、後ろのほうの座席に肩を寄せ合って、つめて座っていました。

つまり多くの学生にとっては「ミクロ経済学演習」の授業というのは

・先生からできるだけ遠く、また教室の出入り口にも近い、という「後ろのほうの席」であればあるほど、「快適」（つまり「リラックスできて、嬉しい」）であり、

そのため「席が重複しない（バッティングしない）」という制約のもと、お互いにできるだけ「うしろの座席」に座ろうとしあっていた・・・のです。

（そしてそのような姿こそはミクロ経済学が述べる「消費者は、自分の効用が最大になるように行動しようとする」という姿そのもの、です。）

もう少し例を挙げましょう・・・

本当に人々は「自分が一番良いようにしよう」としている、その**具体例 2**

学生さんは現在のコロナ過のもと、仕送りやアルバイトで得たお金（所得）の中から、毎日ちゃんと「ごはん」を食べていますか。

ちゃんと、栄養のあるものを、食べてますか？

特に、**男子学生**については、「栄養バランスなんか知ったことじゃない、**コンビニ弁当**とか**スナック菓子**とか**カップラーメン**とか「好きなものだけ、**テキトーに食べているのではないだろうか**。大丈夫だろうか」と、親は心配しますしています。日々**ヤキモキ**します。

（そしてそのようなヤキモキする気持ちは、

消費者である我が子が

ミクロ経済学が述べる、まさにそのまんまに

「自分の効用が最大になるように（スナック菓子とかカップラーメンみたいな）魅惑的なフードばかり食べてしまっているのでは」

と、

「遠く（＝柏崎）にいて、親の目が届かない息子の姿」を心配しているのです。それはまさに**君たちがミクロ経済学の描く消費者の姿そのものである**（自分にとって心地いいものにひたすら傾く）ために、**心配している、ということなのです**。

そんなわけで、繰り返しになりますが

人は、「自分の買うことのできる範囲内」で、自分にとって、一番幸せになれるようにいろいろな財やサービスを買っています。

そしてミクロ経済学の「消費者の理論」とはそのような人々の姿をモデルとして「自分たちはこんな風になっているんだよね。そうだよな？」とって「描き出している（＝客観視している）」だけ、です。

なんだかんだ言いつつも、俺たちはこんな風に、行動しているな、と「（しみじみと）思う」ことが、消費者の理論を「理解した状態」ということに、なります。

それは、「理解」というよりは「納得」と言った方がよい（適切）かも。

（納得する、とは「そうか、そういうことなのか。なるほど。」ということ）

ここで、試しに「出席をとって
みる」ことにします。

3) 出席の取り方について (さっきとほとんど同じスライド)

学生は、私の授業の際には、普段は必ず顔が見える状態にしてください。



Zoomを使って授業をしていると学生も疲れてくるとお思いますので、ときどき授業に「1~2分程度の休憩」を挟みます。休憩時間中は「ビデオの停止」をしてもらいます。(すると**学生の名前だけが映りますので**)、その間に私が「だれが出席をしているか、デジカメでパソコンの画面の写真を撮って記録」します。



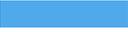
なお、学生は、私が出席を取りおわった(つまり休憩の時間が終わった)ら、必ず**顔が映る(移り続ける)**状態に戻してください(復帰してください。復帰しない学生は欠席扱いになる**可能性があります**)。



切り替えは



このボタンを押す（クリックする）ことで、切り替わります。



では約 1 分間、休憩に入ります。

授業の再開は、**およそ 1 分後**です。

(江口先生が再び画面に登場したら再開です。再開後は、学生は自分の顔が画面に映る状態に、切り替えてください。)

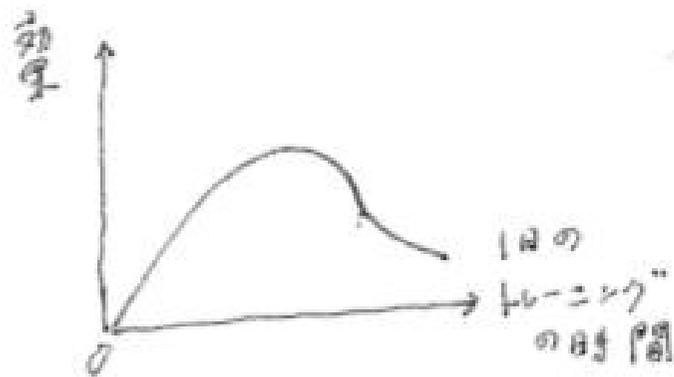
関数とは、 $y = f(x)$ という形で (多くの学生は直観的に) 理解していると思うけれど

要は

「 x の値がコレコレだと、 y の値はコレコレである」

という関係性 (の全体像) を表したものの

関数の例



(← グラフ。グラフとは関数をビジュアルに描いたもの)

一次関数 (または線型関数)

$y = ax + b$ (ただし $x \in \mathbb{R}$) という形の関数を一次関数または線型関数という。

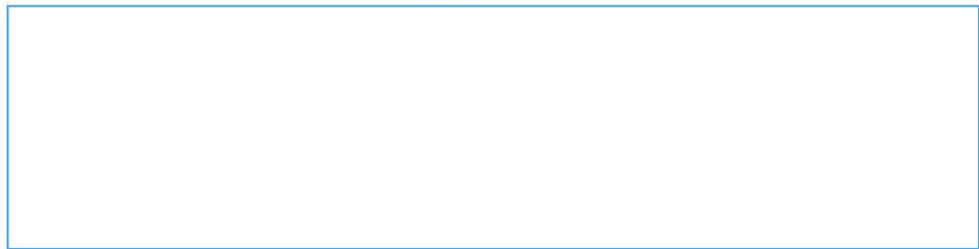
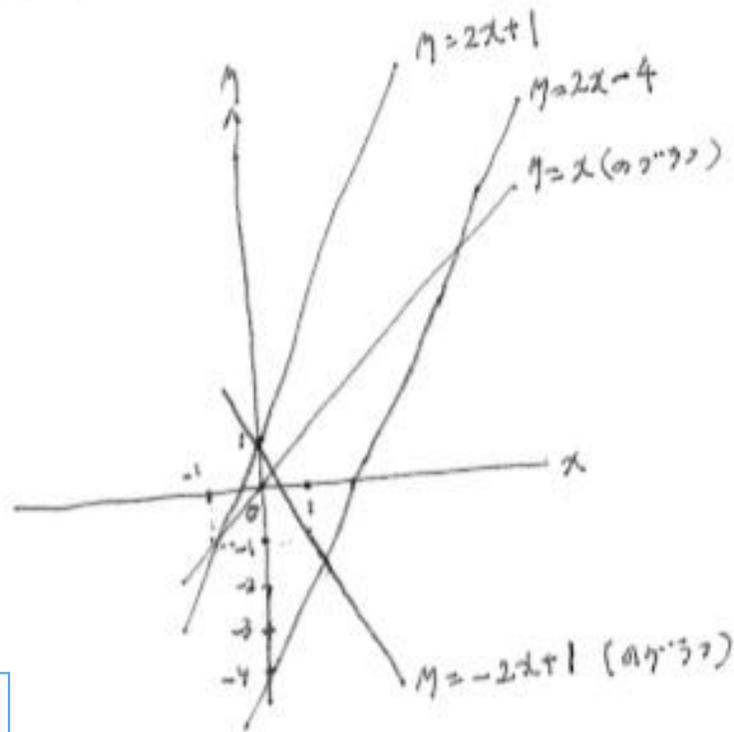
一次関数の例

$y = x$ (← 直線や一次関数)

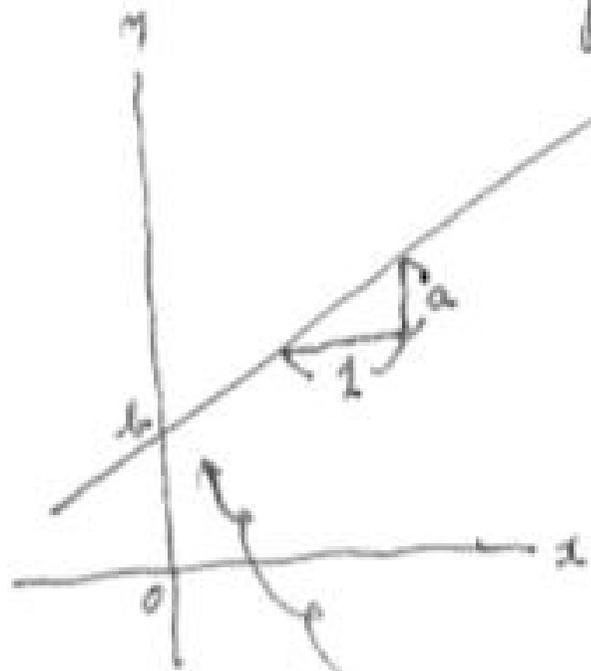
$y = 2x + 1$

$y = 2x - 4$

$y = -2x + 1$



$y = ax + b$ のグラフは ① 解にこのように 直線になる



② x の値が 1 だけ大きくなると y の値は a だけ増える。そのため「傾きが a である」という。

③ y は、 x 軸との交点 (それを ^{せり} 切片という) は、
($x=0$ とした y の値である) になる。

2次関数

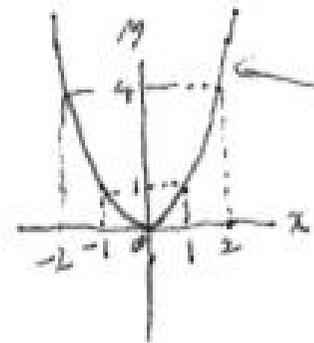
$y = ax^2 + bx + c$ (ただし $x \in \mathbb{R}$)
 この形の関数を2次関数という。

2次関数の例

- $y = x^2$
- $y = 3x^2 + 6x - 5$
- $y = 2x^2 - 4x + 8$ (ただし $x \in \mathbb{R}$)

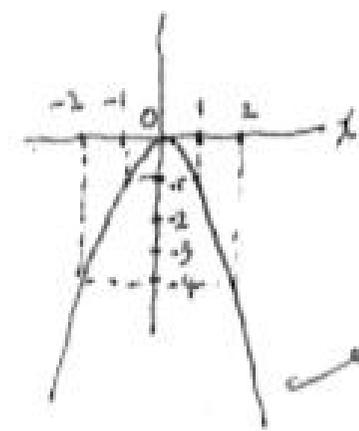
2次関数の基本は $y = x^2$, $y = 2x^2$, $y = -x^2$,
 $y = -2x^2$ など。

$y = x^2$ ← $x=0$ のとき $y=0 \times 0 = 0$
 $x=1$ のとき $y=1 \times 1 = 1$
 $x=2$ のとき $y=2 \times 2 = 4$
 $x=-1$ のとき $y=(-1) \times (-1) = 1$
 $x=-2$ のとき $y=(-2) \times (-2) = 4$



$y = x^2$ のグラフ
 はこんな感じ
 だよ

$y = -x^2$ ← $x=0$ のとき $y=-1 \times 0 \times 0 = 0$
 ($= -1 \times x^2$) $x=1$ のとき $y=-1 \times 1 \times 1 = -1$
 $x=2$ のとき $y=-1 \times 2 \times 2 = -4$
 $x=-2$ のとき $y=-1 \times (-2) \times (-2) = -4$
 $x=-1$ のとき $y=-1 \times (-1) \times (-1) = -1$



$y = -x^2$ の
 グラフは
 こんな感じだよ

時間が余った場合の雑談・・・FAQ（えふ・えー・キュー）

FAQとは frequently asked questions の略で、「この質問があまりにも多いので、あらかじめ答えを用意しておきますね」という感じの「質問」（と、それへのあらかじめの回答）

飲み物とか飲みながら
Zoomを見てもいいですか？

飲み物および簡単な食べ物（スナック菓子など）をつまみながら
Zoomを見ていても、かまいません（パソコンの上に飲み物をこぼさないよう十分に注意したまえ）。

単位くれますか？

「単位下さい」と言われると、かえって「単位をあげたいな」という気持ちか、そがれます。「どうすれば取れますか（奪えますか？もぎとれますか）」と、学生は言うべきです。

運動部です。部活が大変ですが
考慮してくれますか？

本気で
「**日本一になりたい。なるんだ。**」
とか
「**オリンピック選手に選ばれてオリンピックに出場したい。絶対にオリンピックに出たい**」
といった「燃える志」のある学生に対しては**出来る範囲内で最大限の協力はしてあげたい**という**想い**は持っています。